

2020年  
12月21日  
月曜日

上村 敏之 教授（財政学）

# マスクとワクチンの 経済倫理

新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活にマスクは欠かせなくなりました。今後はワクチン接種が、経済活動の本格稼働に向けて重要になりそうです。ここでは「マスクとワクチン」について、経済倫理の観点から考えてみます。

ところで経済倫理とは何でしょうか。倫理学は「正しさ」を考える学問ですが、経済学は必ずしもそうではありません。ここで経済倫理とは、「正しさ」を経済学から考えること、としておきます。

まだ記憶に新しいですが、ドラッグストアの店頭からマスクが消えた時期がありました。インターネットではマスクが高額で販売されていますが、品薄状態のマスクを高額で販売することは「正しくない」と考

えるべきでしょうか。実際、一定期間でしたが、マスク

の高額取引は禁止されました。私たちの社会は、マスクの転売を「正しくない」と考えたわけです。おそらく、医療従事者の方々にすら、マスクが届かない状態であったことが背景にありました。そこで、社会が「正しさ」を求め、転売規制につながったと考えられます。

しかしながら経済学では、需要が供給を上回った場合に、価格が高くなって受給が調整されることは当然の市場法則です。経済取引を規制で制限することは、通常の経済学の考え方では慎重になるべきだということとを、経済学を学ぶ私たちは、知っておくべきでしょう。

次はワクチンを経済倫理の観点から考えてみます。新型コロナウイルス感染症を収束させるために、一部の承認手続きを飛ばして、接種を始めている国があります。承認が遅れ

るほど、感染症による死亡者が増加するからです。ワクチンが有効に機能すれば、感染症による死亡者は減りますが、承認が早すぎると重大な副反応が出る危険性があります。ワクチン承認の時期は、遅くても早くてもリスクがあり、倫理的問題が横たわっています。

さらに厄介な倫理問題は、各国間におけるワクチンの配分です。実際は、資金力のある先進国がワクチンを競って購入し、早めに接種しようと動きました。それにより、途上国の人々の接種時期が遅れ、なかでも医療体制が脆弱な国では、深刻な被害が長引く恐れもあります。私たちは、生まれる場所を自ら選んだわけではありません。先進国に生まれたからワクチンを先に接種でき、そうでないからワクチンを接種できないというの「正しい」のでしょうか。

「マスクとワクチン」は、いまや人の生死に関わる財であり、極端な供給不足に陥った財であることに共通点があります。こういった財は、配分のあり方に倫理的問題が生じます。私たちの周辺には、経済問題と倫理問題が混在した問題が存在しており、その解決について、経済的な合理性だけでなく、倫理的な「正しさ」を求められることがあります。経済的な合理性が「正しさ」に一致するわけではありません。

キリスト主義教育を掲げる関西学院で学ぶ私たちは、倫理的な「正しさ」に理解をしつつ、経済学部生としては経済学の考え方についても理解をできるようにしておくことが、大切になります。